

瑞穂市子どもの読書活動推進会議 会議録

審議会等の名称	令和8年度 第1回 瑞穂市子どもの読書活動推進会議
開催日時	令和8年7月9日(木曜日) 午後2時00分 から 午後3時30分
開催場所	瑞穂市図書館分館 学習室
議題	- 第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の概要について - 令和8年度の読書活動推進について 「家読」運動の啓発推進と家庭での読書環境の整備 - 小学校で読書活動を「充実」させ、中学校での「強化」 - 小・中学校の図書システムの統一 「子ども図書館」をめざした市図書館分館の整備 - 意見交流
出席委員	廣瀬 真也・廣瀬 久士・吉田 里美・井深 吉男・高橋 由夏・河合 三奈子・藤本 桂子・瀬上 涼・熊谷 祐子
欠席委員	宇野 睦子・日比 亜佑美・今津 真美
公開の可否 (非公開理由)	公開可
傍聴人数	0人
審議の概要	- 第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の概要について(事務局) - 令和4年度から令和8年度までの5年間の計画として策定されたもの。この計画を受け、年4回の会議を通して、計画の進捗状況や事業についてご助言をいただいている。 - 瑞穂市の基本目標は「本に親しみ、本を楽しみ、本に学ぶみずほの子の育成」である。「読書のまちみずほ」を合言葉に、子どもたちが本に触れ、読書を通じて人生を豊かに生きてほしいという願いが込められている。この目標を具現するための基本的な方針として、子どもが読書に親しむきっかけ・習慣づくり、子どもの読書活動を推進する環境づくり、子どもの読書活動の魅力づくり、子どもが読書を楽しむ連携体制づくりを大切にしている。 - 今年度は5年計画の5年目、最終年となる。第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画を振り返り、第四次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の策定に入っていく。 - 令和8年度の読書推進活動について(事務局) - 第三次子どもの読書活動推進計画では、次の4点を重点として推進している。 「家読」運動の啓発・推進と家庭での読書環境の整備 - 小学校で読書活動を「充実」させ、中学校での「強化」 - 小・中学校の図書システムの統一 「子ども図書館」をめざした市図書館分館の整備 - 家庭教育学級では、「家読」の推奨を継続している。今年度も多くの小学校、幼稚園、保育所で家読に関わる取り組みを行う。 - ブックスタートは、10か月検診などの機会に、「読み聞かせ」と「絵本」をセットでプレゼントする活動である。毎月2回、年24回実施をしている。平均20～25組ほどの親子が参加している。 - ビブリオバトルは、今年度で5回目となる。学校の教育活動内で可能な方法で取り組み、学習の成果を発表し称える場として実施する。おすすめの本(自分が好きな本)のよさを見つけたり、仲間がおすすめする本に触れたりすることで、本に興味・関心をもつことを大切にする。あくまでも、ビブリオバトルは読書に親しむきっかけづくりの一つで、本番までの取組の中で、多くの子どもたちが本のジャンルに関係なく読書に触れ、本の楽しさや面白さを実感していくことを大切にする。 - 今年度は、10月17日に、ココロかさなるCCNセンターを会場に行う。 - 今年度、子どもたちのタブレットを活用した最新の図書館システムの導入を行う。現在、各学校にてシステム移行を行っており、できるだけ早く開館ができるよう作業を進めていただいている。子どもたちは、自身のタブレットを使って、蔵書の検索ができるようになるだけでなく、貸出記録が残ることで、自身の読書の記録も残すことができるようになる。 - 市図書館は子どもたちの読書活動を支援する施設である。特に分館では、児童書や子ども向け新聞をそろえ、絵本の棚、絵本フロアなど子育てに関わる支援を行っている。子どもや子どもをもつ親が利用しやすく本に親しみやすい施設整備と事業の企画に努めている。 - 今年度4月1日より指定管理者による管理・運営が始まった。今年度は、これまでの運営を踏襲する

ことで、指定管理者に現状を把握してもらうよう努めている。これにより、現状や改善点をつかみ、来年度以降、指定管理者が有するノウハウやアイデアを活用したより柔軟な運営に切り替えていくという流れを考えており、今年度は指定管理者との連携をより密にする1年と捉えている。

3. 意見交流

(井深委員)

- ・図書館の利用に関して、単年のデータが出されているが、分館が指定管理になったこともあり、今後は5、6年での推移を比較して確認したい。

(藤本委員)

- ・図書館の企画事業である「本と灯の読書会」について、大人が楽しめるようなイベントがないこと、岐阜市で参加して非常に楽しかったこともあって発足した大人のための読書会である。第1回は8名ほどが本について話し、5、6人が見学に来てくださった。大人が楽しめる、アットホームな会になっている。みなさんにも、ぜひ参加していただけたらと思う。
- ・会の中で紹介された本が、図書館のコーナーで紹介されてもいるので、手に取っていただけたら。

(瀬上委員)

- ・図書館の様々な企画事業について、指定管理になったことで、宣伝等しやすくなるのではないかな。市のインスタグラム等を使って、若い人たちにも積極的に広報してほしい

(廣瀬委員長)

- ・小中学校図書室のシステムが新しくなり、大変ありがたい。夏休み前に貸し出せるように準備をしている。夏休みには、ゆっくりと読書をしてほしい、本に親しんでほしいと考えている。

(熊谷委員)

- ・会議録の改善、項目は絶対に落とさないようにしてほしい。
 - ・図書館と学校に、非正規じゃなくて正規の司書を増やして方向で考えてほしい。「読書のまち みずほ」を掲げているのだから、予算を増やす、少なくとも削らないということを肝に銘じてほしい。本は人なり、読書は人なり。本と人をつなぐのは司書である。少なくとも図書館には正規の司書の方を増やしてほしい。
 - ・親子読書について、祖父母も含めて、家族読書、家庭読書というべき。親や祖父母などという表記、同居してなくても近くにいたり泊まりに行ったりすることも含めて考える。高齢者福祉と連携して、お孫さんにぜひ読んであげてくださいねなどの声掛けも大切ではないかな。
 - ・子ども新聞について、学校図書館や本館分館での購読について。特に、図書館分館はどうなっているのか。
- 図書館（本館）では、週刊のものを2誌、日刊のものを1誌、全部で3誌とっている。
- 分館では、3誌に加え、月刊のものも1誌置いている。
- ・学校図書館の利用頻度はどれくらいあるのか。毎日なのか、週3日くらいなのか。本当はいつでも学校図書館に行けるようにしておいて、子ども新聞を置いてほしい。

(廣瀬委員長)

- ・西小学校では、図書室を毎日昼休みに開けている。図書整理員さんが貸し出しの手続きをしている。子ども新聞は週刊のものを置いている。

(熊谷委員)

- ・新聞の貸し出しもぜひしてほしい。家で新聞を読む習慣も少なくなってきたからこそ、紙の活字を読む機会として考えてほしい。各家庭で子ども新聞までとるのは経済的にも大変なことでもあるし、子ども新聞をもっと子どもたちに知ってもらう努力もしてほしい。1日遅れ、1週間遅れでもいいから、貸し出しも検討してほしい。新聞にはいろいろな記事があり、そこをきっかけに、子どもたちが様々なものに興味をもつことにつながっている。学校図書館には複数誌あるといいのではと思う。

(廣瀬委員長)

- ・小学校では、国語の学習で、2誌を読み比べて、記事の取り上げ方や内容など、違いを読み取る学習をしている。
- ・中学校は社会科で行っている。

(藤本委員)

- ・熊谷委員が小学校で新聞に触れることが大切だとおっしゃられるのは、読む楽しさというのは新聞から始まると考えてみえるからだと思う。例えば、図書館でいうとどこにあるか探せない分らないと

ということではいけないので、新聞のラックを中央に置く、開いた状態で置くなど分かりやすくするのもいいのではないかな。

- ・小・中学校で、学校によって図書館利用に関する違いや差はよくない。こっちの学校は毎日昼休みに開放しているが、こっちはしていないということはないように。

(井深委員)

- ・どの学校も基本的には、昼休みに図書室を開けていると思う。会議や行事等がない場合は原則的に解放している。中学校もそうだと思う。

(藤本委員)

- ・読み聞かせのボランティアで学校に行った時によく見るのは、クラスごとに本を借りに来ている時など、子どもたちはとっても楽しそうなのに、先生方が早くするよと追い立てたり声をかけたりしている。それでは、子どもたちは好きな本や読みたい本を探したり、選んだりすることができないのではないかな。システムが簡単になったのなら、その分もっと時間をしっかりとって、図書館の時間は自由時間というぐらい楽しんでほしい。
- ・不登校の子の居場所としても図書館はすごくいいと思う。今、本を読む子って個性だと思う、運動が得意な子、勉強が得意な子、給食を食べるのが早い子みたいに、本を読むのが大好きな子という個性があってもいいと思う。図書館は、いろいろな子がいつでも利用できるような開放の仕方をしてほしい。

(熊谷委員)

- ・図書館分館の学習室の利用に関して、現在、不登校が増えているが、例えば、学校に行っていない時間に図書館の利用はできるのか？
→可能だと思う。小学生の場合は校区外に行くには保護者の付き添いの必要はあるが、外に出ることがまず大切なので、図書館として、一人で来ていたら声をかけたほうがいいかなというのはあるけれど、基本的には学習室も平日でも利用できる、基本的に教育委員会としては、温かい目で見守ることも大事なことで、子どもだからこの時間は学校行かなきゃいけないから出なさいみたいな感じではない、

(高橋委員)

- ・学校による違いや差があってもいいかなということの1つに、外部の人の読み聞かせの活動もある。コロナ渦でなくなってしまっていたり、放送室からの放送になったり、最近また始まったりという話を聞くけれど、コロナ渦から明けてきたので読み聞かせについても、学校に入れてもらえるといいかなと思う。地域と連携した読書活動をいろんなところでやっていってほしいし、小学校だけでなく中学校でもブックトークなど本の紹介など、本に親しむ機会を作ってあげられるといいかなと思った。
- ・第四次子どもの読書活動推進計画は、次の5年間を決める大事な計画だから、きちんと検討して作っていききたい。会議も分けてちゃんとやりたい、

(熊谷委員)

- ・ビブリオバトルは小学生でしているけれど、読書は自分と向き合う、一人でやるものである。読むときはあくまでも一人であって、その後、人に宣伝する、勧めるというのは次の段階の活動である。小学生のうちは、本と向き合う、読むということを一人でおもしろい、楽しいと感じるのを体で覚える時期である。だから、ビブリオバトルを小学生+中学生で行うか、あるいは人に勧める前に、自分がどのように本と向き合ったかというのを考える上でも読書感想文をもっと大切にすべきではないかな。読書感想文というと構えてしまうが、楽しかったというようなことを書くだけでも、自分がどう思ったのか、どう向き合ったのかを書かせたい。ビブリオは中学生、小学生は読書感想文（もしくは両方）というようになるとよい。
- ・学習室について、居場所って必要で、子どもが一人になれる居場所、一人で読む、好きなことを学習するなど、そんな場所として大切にしたい。不登校についても、昔ほど親も学校も学校に行けと言わなくなったと聞くので、やっぱり子どもにとって居場所ってあるといいと思う。
- ・第四次の計画案に、今日出たいろんな意見をどこまで反映してもらえるか。

(廣瀬委員長)

- ・読書感想文について、小学校では夏休みに読書感想文を書きましょうという声かけはしている。ただし、全員に書かせることはしていない。書くとなると、原稿用紙3、4枚となるので少し難しいという場合もあるので、そのかわりにビブリオバトルの紹介カードは全学年、全員書いている。そこから本に興味を持つ、本の面白さを自分で書くことが大事かなと考えている。その中から代表を選ぶような形なので、読書感想文自体がなくなったわけではない。

(熊谷委員)

- ・読書感想文を書きたい子は書くというスタイルはいい。さらに、ビブリオのように発表の場や順位をつけるような、そんな場を設けて、出したい人は出すといいよっていいと思う。
- 読書感想文も審査を行っていて、教育長名で賞状も出している。
- ・ビブリオについては、小学校ではなく、中学校こそ人に本を勧めることはやった方がよい。例えば小学校は好きな子だけ読書感想文、中学校はビブリオとか、好きな子はどっちも出すというような、基本ビブリオは中学生だと思う。ビブリオは競争だから。小学校のうちは楽しむっていうことが大切。

(井深委員)

- ・中学校は、もうひとつ大きなものとして「少年の主張」がある、現場では、部活動等もあり、なかなか時間が取れない。意見は分かるが実際は厳しいものがある。小学校では、少年の主張もないので、1つ目玉として、ビブリオを始めたという経緯がある。これで、4、5年目となって形がついてきて、最初のころはできる子とできない子の差が激しかったが、今は甲乙つけがたいくらいになって、レベルも上がってきているのもう少し今の形でやっていった方がよいと思う。
- ・また、ビブリオをやってきてよかったと思うのは、小学校であまり本を好きではなかった子も、ビブリオをもとに表現の豊かさによって、その本を読んでみたいとなる子がすごく増えたということが実際にある、いい面もあるのもう少しやってみたい。

(瀬上委員)

- ・親の立場としては、残念ながらうちの子どもたちはそんなに本が好きではないし、ワークシートなど低学年だとひとりで書くのがやっぱり難しいので一緒に考えている。また、家読（うちどく）の取り組みでも、子どもが読んだところを読んでみるというようにやっている。それもイラストの多い本を選んでくることが多く、本当は小説とか読んでほしいけれど、読んでみるとああこんなことが学べるんだなと実感できて、それはそれでいいのではと思っている。
- ・各保育所や学校での取り組みは、情報として、他の保育所や学校と情報共有はされているのか。例えば、穂積小の推薦図書回覧、学校とPTAが推薦した本を家庭に持ち帰り、親子で読書した、というふうにされたのか、聞いてみたい。

(廣瀬委員)

- ・PTAでこれがいってものを司書さんと選び、借りたいという申請があれば貸し出せるという形にしてある。全員にまわるとよいが希望者に貸し出すという形になっている。全員にまわすと回収が難しく滞ることもあるので。何冊かはPTAのお金で買っている。廃品回収がなくなって、代わりに企業さんがボックスを置いているが、結構な収益になるため、そのお金をいただいて本代にする活動をしている。学校は予算をつけないと本が買えないが、本って出たその時に買いたいものなので、それをPTAはそういうことができるので、この取り組みが始まったのではないかなと思う。意外に希望者が多いのが現状。親が読みたいというのものもあるかもしれない。

(瀬上委員)

- ・いろんな本を知る機会としていいと思う。他にも、ビブリオで紹介された本が学校の図書館で実際に案内されていた。今はどうしても活字から離れがちだが、せっかく子ども新聞を頼んでいることも、その魅力を学校でも図書館でも紹介してもらえると、本は好きだけど新聞は読んでいない子もいると思うので、ぜひ紹介してもらえるといいと思う。

(藤本委員)

- ・本田小は読み聞かせがしばらく続いているが、別の小学校の方に相談されたことがあって、継続してやってくれる人がいないというのが現状。やはり、世話役になる人が1人は必要で、実際にやっているがシフトを組むのも大変で、いろいろな意見を聞きながら融通を効かせるのも大変。それを何とか学校図書の方にやってもらえないか。そしたらお母さんたちは行きたいときに行けて、今より気軽に始められるのではないかな。本田小では、昨年度からPTAの特別会計の方から5万円支給されることになったが、それでボランティア1人あたり2500円くらいの図書券がもらえるのだが、結構多いように見えるが、絵本2冊分、年間毎月お母さんたちが来てくださって、それを1年くらい先生たちに比べたら半分か3分の1にも満たないくらいだと思うが、毎回読む本を選んで考えてとなると、図書館に行くのも大変だし、絵本を買うのも今とても高いので、そういうところでPTAに予算を立てていただくということを、すべての学校統一してやってもらえないだろうか。

(廣瀬委員)

- ・話をすることはできるが、あくまで各学校になってしまう。ただ、役員の皆さんは同じ感覚で活動しているので、PTAとして学校に本を寄贈しているはずでは？
- PTAから本の寄贈ということもあるが、読み聞かせをしている人に謝礼という形で図書券とかにし

	ているので、こういったことを他のPTAにも広げることにはできないか。 (藤本委員) ・お母さん方の意見として、私たちがもらうよりも図書館の本を充実させたいということであれば、それでもよい。その予算はPTAから出ないものか。今、PTAは委員会等も減ってきて、一人一人の負担を減らそうという方向にあるが、その分、ボランティアの人の負担が増えていると思う。読み聞かせのボランティアに限らないが、もう少しだけ、ボランティアに対しての謝礼についてPTA連合会の方でも考えてみてほしい。 (廣瀬委員) ・予算を立てるとなると各学校の内規から変えないといけない。最終判断は各学校に委ねることになるが、役員会など集まりがある場合は、これについて話をしてみようと思う。 (高橋委員) ・昔私が生津小で始めた時は、ボランティアの仲間を集めて、あと何人かのお母さんたちに声をかけてはじめて、何年かしたときに、学級委員会と父親委員会などの委員会から、ボランティアに来てくれるようになった。 (藤本委員) ・やってくれる人に全部委ねてしまうというのは今の時代難しいと思う。また、ボランティアをしてくれる親さん、大人がいないようなところでは、高学年が低学年に読み聞かせをするというのはどうか、 (廣瀬委員長) ・図書委員会の活動として、それを行っている学校もある。 (廣瀬委員) ・6年生が1年生の子のお世話をしに行く期間があり、その中で読み聞かせについてもあったような気がします。子ども同士のものがあったように思う。 (藤本委員) ・そういうふうに、みんなが一緒に本を読める環境を作っていけたらと思う。 4. おわりに (事務局) ・アンケートの結果やそれぞれ学校の状況について情報の確認を行いたい。学校によって差が出ないようというのはその通りなので、いろいろと調べたい。 ・計画を立てていく上では、皆様からの意見が欠かせない。今後も活発な意見をいただきたい。よろしくお願いします。
事務局 (担 当 課)	瑞穂市教育委員会生涯学習課 TEL (058) 327-2117 e-mail syougai@city.mizuho.lg.jp